

神奈川県立生命の星・地球博物館

友の会通信

Vol. 13, No.4, 通巻67号 2010.3.20 発行

◆ 活 ◆ 動 ◆ 報 ◆ 告 ◆

早川水系の歴史と文化の探訪！ Part 8

早川下流域の自然観察会

2009年11月28日(土) / JR早川駅～早川河口～海蔵寺～石垣山一夜城跡～佐奈田霊社～紀伊神社～早川観音～久翁寺～JR早川駅 / 22名 / 講師：勝山輝男学芸員、笠間友博学芸員、新井一政学芸員

昨年に引続いて“早川下流域の自然観察”を計画しました。昨年は左岸域を博物館から小田原駅までのコースでしたが、今年は早川河口から右岸域（早川地区近隣）の歴史や文化の地を訪ねながら、自然を観察しました。コースにはたくさんの史跡（海蔵寺、石垣山一夜城、佐奈田霊社、石橋山古戦場、紀伊神社、早川観音、久翁寺）があって、一つずつ歴史を楽修しながら起伏に富んだミカン畑の丘陵を歩きました。

当日は好天に恵まれ、相模湾、足柄平野、丹沢山、大磯丘陵、三浦半島、遠くは横浜まで見渡すことができました。眺望の良いところで地形（相模トラフなど）の説明や佐奈田霊社での“源頼朝の旗揚げ合戦”の講話や参加者に土産を住職からいただくなど、晩秋の一日を楽しく過ごしました。（佐藤昭男）



石垣山一夜城跡から足柄平野方面を眺める

——目 次——

活動報告 ……………1～3	博物館 NOW……………7～8
高い視点から位置を知る…4～5	情報クリップ……………8
わたしの選ぶ“この一冊”…6	行事案内 ……………9～10

第89回サロン・ド・小田原

『プラントハンター フォーリーの生涯』

2010年1月9日(土) / 東側講義室・レストランフォーレ / 講演44名 交流会27名 / 講師：勝山輝男学芸員



新年が明けて博物館が始動した初めての週末、植物担当学芸員の勝山輝男さんによる講演と交流会が行われました。

会場の講義室は年始にもかかわらず沢山の参加者で一杯です。昨年の12月5日から2月21日まで開催されている企画展『押し葉』～古瀬義 植物標本コレクション～の日本最後のプラントハンター（植物採取家）古瀬氏に因んで、日本で活動した最後の外国人プラントハンター ユルバン・フォーリーの植物採取活動をフォーリーの年譜に沿ってお話していただきました。フォーリーがフランス人宣教師として来日した1873年（明治6年）から亡くなった1915年（大正4年）まで、宣教師を務めながら日本全国、朝鮮半島や台湾、ハワイなどを渡り採取活動した約40年間の採取家としての様子を興味深く聞くことができました。また、会場には和名や学名にフォーリーの名がついた標本も展示され、フォーリーの功績も目にすることができました。

2部では演者の勝山さんを囲んだ交流会がレストランで進められました。レストランは有志によるバイで作った「押し葉」の展示や差し入れの料理や飲

み物もあって新年に相応しく親睦が深まりました。
また、近隣の参加者から地域の自然情報なども提供
され、盛況のうちに今年初めてのサロンを終えるこ
とができました。(佐藤昭男)

第48回植物講座

「冬の樹木を楽しむ」

2010年1月30日(土)／博物館周辺と実習実験室／
31名(大人)／講師：友の会植物グループ

寒さも和らぎ、絶好の観察日和の中、山神神社から「冬の常緑樹の観察」がスタートした。

私たちの班は最初にアオキに関するビンゴゲームに挑戦後、現物を観察。見慣れているアオキも雌雄の見分け方など色々な観点があることを学んだ。

次は、樹形、葉の展開、冬芽などを見ながら近くの林をゆっくりと一巡り。特に幼木の観察は面白い。普段見ている成木の特徴では、幼木は同定できず、驚かされるばかり。なかでもカゴノキのきれいな枝の色や、クスノキの緑色の樹肌は感動もので、自然の不思議を、改めて実感できた観察だった。

午後は、実習実験室で、標本を使って、午前の観察をさらに深める学習。アオキの冬芽の分解結果と芽吹き後の姿の対比で冬芽の構造を理解後、クスノキ、ブナ科の仲間を葉、冬芽などを比較しながらの観察。ニッケイ、ヤブニッケイの違いなど見比べることができた。また、ウラジログランなどの葉裏をライターであぶり、色の変化・匂いなどで、白い部分がロウ成分であることがわかる面白い実験も体験し、楽しい時間を過ごすことができた。

私のような初心者にとっても、植物観察の面白さを実感できた講座であり、下見、標本の準備を含め



常緑樹林を歩く 撮影者：山本絢子

運営された植物グループの皆さんに感謝します。

(平島靖士)



タブノキの冬芽 撮影者：山本絢子

地図をたのしもう

2010年2月7日(日)／実習実験室及び石垣山一夜城跡／19名(スタッフ2名含む)／講師：新井田秀一学芸員

地図を読めるようになりたい！ という会員の皆さんの要望で立ち上がった講座も今回で4回目となりました。今回は室内での座学と、フィールドに出での地図の読み方を学びました。地図は2万5千分の1地形図「小田原南部」と「箱根」です。博物館を中心に付近の地図情報を読みこなそうという目的でこの2枚となりました。

まずは新井田さん手作りのテキストを使って、地図の概念、丸い地球をどのようにして平面の地図にすることができるのかとか、2002年に行われた日本測地系から世界測地系への改定、方位、縮尺、を学びました。

休憩のあと地図記号を学びました。参加者から『おとなりは「温泉地学研究所」と記載がありますが、なぜ博物館は何も書かれていないのか』との質問がでました。2003年に地図記号が改定となり、博物館(と図書館)が新設されたため、文字情報はカットされてしまったと説明がありました。それから等高線の読み方とコンパスの使い方を学びました。コンパスの使い方は皆さん新鮮な体験だったようで、お昼時間をとくに過ぎても質問が絶えませんでした。

午後からはいよいよフィールドワーク。一夜城跡をめざして出発です。現在地を地図上で確認しながら、またランドマークとなるものを確認しながら



石垣山一夜城跡の三等三角点を確認中



地図上で現在位置の確認をおこなう

ゆっくりと進みます。途中、高圧線の鉄塔がよい目印になることや、地図上での道路の幅の情報と現状との違いに気付かされたりしました。また等高線を読んで実際の道路の勾配を実感したり、実際の植生と地図上の違いを見たりしました。天気も良く、足柄平野や雪の残る丹沢の峰々や箱根の中央火口丘を遠望しながら、一夜城跡に到着。一夜城跡域には三等三角点と標高点が地図で示されていて、最後にこれらを皆さんで探索しました。

地形図は限られた紙面の中にぎっしりと情報が詰まっています。これを読み解くのは容易ではありませんが、フィールドに出ての実地見聞は、皆さん地図への理解を深めたようです。（関口康弘）

第3回 製本講座

2009年11月15日(日)／博物館実習実験室／6人
／講師：黒澤知子（友の会）

今回の製本講座は、手持ちの資料でA4サイズまでの限定ということでした。参加者の皆さんが持ってこられたものは、一年間の観察記録、観察会の資料、手作りはがき、これから張り込むためのつかみ本で、という具合で、博物館講座ならではのそれぞれとても個性的なもののばかり。個性的にこだわるという点では、表紙に用意した布も着物リサイクルあり、手持ちの“こだわり”布ありで、どれにしようか、こちらのほうがいいよと、自然と参加者同士話題がふくらみ、リラックスしたなかで楽しい本作り講座が始まりました。

途中、さまざまな作業工程では、得手不得手をお互い助け合い、講師の黒澤さんにはきれいに仕上げる方法やコツの指導を受け、糊付けの時間など時計とにらめっこをしながらも、何とか予定の時間内に終了することができました。できあがった本は、まさにオリジナル作品でした。

感激とともに大事に本棚に置かせていただきます。
（星野和子）



完成した本を手に記念撮影

※ 2009年11月14日の「鎌倉の第四紀層巡検」は天候不順のため中止となりました。

※ 2010年1月23日の「こども植物おもしろ発見講座」は申し込みがなかったため中止となりました。

高い視点から位置を知る

学芸員 田口 公則

■俯瞰（ふかん）して景色を楽しむ

高いところに上ると視界が広がります。この高所から俯瞰するという楽しい作業に気づき、ビルの高層階や山頂を目指したり、あるいは地形図や空中写真を見たりして興奮されている方も多いでしょう。私も、かつては、空気が澄み山の上の木立がくっきりと見えるときは、カメラ片手に大山へ登り、その展望を楽しむ遊びをしていました。

高いところは怖いたちなのですが、不思議なことに、視界が利く高所からの眺めは大好きなのです。空撮時、ファインダーをのぞいている間は機体の揺れも気になりません。苦手な観覧車も眺めがよいのなら乗ってみたいと思います。その第一候補は鹿児島中央駅の大観覧車。桜島に霧島連山や高隈山を見ながら錦江湾、足下に広がる鹿児島の街並みを見てみたいのです。そしてできれば静かな桜島ではなく、モクモクと噴煙を上げる活動的な場面を俯瞰することができればベストです。そう、伯父さんにつれられたコペル君が、デパートの屋上から街が活動していると感じたように（参考；吉野源三郎著『君たちはどう生きるか』）。

“俯瞰”という行動のウラ側には、「全体」の中に自分の日常の経験を点や線としてプロットしていく作業が伴っているように感じます。

■デジタル空中地図の出現

現在はパソコン画面を見ながら空中散歩を楽しむことができます。Google Earthに代表されるデジタル3D地図情報が登場し、オンラインで世界各地を飛び回ることが可能です。空中写真と地図を重ねたデジタル空中写真も増えています。いずれの画像も人工衛星や飛行機からの画像をつなぎあわせたものです。都市部などでは、道路上の「止まれ」を判読できるほどの高解像度画像が公開されています。車好きの人ならあるいは車種までわかるのではなかろうかという解像度です。すなわち、飛行機やヘリコプターあるいは高層ビルといった高さの視点を十分にデジタル空中写真がカバーできるようになったといっていよいでしょう。

■高いところからより広く、より細かく

これまでの空中写真の進化方向は、一枚の写真で広範囲かつ詳細な情報を得ることにあり、より上空からの撮影そして大きなフィルムによる高解像度写真撮影といった工夫がありました。その後、デジタル化によって新たな進化方向が見えてきました。画像処理技術が発達し、デジタル画像として多量に得られた衛星画像や航空写真画像をスムーズにつなぎあわせたシームレスのデジタル画像の進化が続いています。

地域を俯瞰するレベルでは衛星画像や空中写真は十分有用な情報を持っています。しかし、それらの画像は地面の石ころや草木が判読できる解像度はありません。そのレベルの情報は、現場で自分の目で直に対象物を見ることが一番です。フィールドワークで自分の身長での観察を続けていますと「もう少し高いところから俯瞰できればな」という状況がしばしば生じます。脚立の上に立つだけでも視界が広がります。そして、さらにもう少し高く上がりたいと欲が出てきます。この気持ちが行き着いた先が、次に紹介する棒の先にカメラをつけて撮影するという方法です。

■腕を伸ばしてより高く

高い視点から撮影する手軽な方法は、腕を真上に伸ばしてシャッターをきることです。デジタルカメラならその場で画像を確認しながらトライアンドエラーで撮ればいいのです。

数年前の台風通過後、大磯海岸で岩盤の地層が足下に広がったことがあります。このとき高い視点での撮影をしようと試みた方法が、塩ビパイプを継ぎ足した棒にカメラを取り付けての撮影でした。セルフタイマーをセットし即座に棒を立ち上げる撮影です。塩ビパイプは柔らかく、棒が予想以上にグラグラとしりましたが、何度も取り直すことで目的の画像を得ていました。その後、数秒ごとに自動撮影するコンパクトデジカメを利用することで、あわてて棒を立ち上げる必要がなくなっ



たなり、手軽にパノラマ撮影が可能となりました。

現在、長い棒での撮影はさらに進化しています。塩ビパイプの棒はスライド式に伸びるアルミ製の棒に変わりました。アマチュア無線を楽しむ人たちが野外で使用しているアンテナポールの流用です。アンテナポールなのですがサッカーなどの応援団が旗の振り竿にも使用しているようです。棒の長さは5.5 mです。カメラは、コンパクトデジカメからデジタル一眼カメラとなり、操作リモコンでシャッターをきるができます。パノラマ撮影した複数画像の合成も機能が向上したソフトが助けてくれます。これらのツールによって、5.5 m上からの視点を手軽に画像記録できるようになりました。

■ 5.5 m上空からのパノラマ撮影

写真をつなぎ合わせることで広範囲をカバーする方法として、パノラマ撮影とモザイク撮影の2つのパターンがあります。カメラレンズの画角では、一度に広い範囲を写せません。そこで、少しずつ写す範囲をずらして撮影し、あとで一枚に合成し広い範囲をカバーする技法です。

パノラマ撮影は、カメラの位置は固定し、回転によって撮影方向をずらしていく方法です。棒の先にカメラを斜め下に向けて固定し、一枚撮るごとに少しずつ棒を回転すればいいです。このときカメラの視野の端に真下の棒を写し込んでおきます。十数枚の撮影で一回転するでしょう。画像ソフトで合成すれば、魚眼レンズでとらえたように周辺が歪（ひず）んだ画像となります（右写真）。

モザイク撮影は、カメラを真下に向けて棒に取り付け、位置を移動しながら撮影する方法です。航空写真と同じ要領です。これなら歪（ひず）みのすくない画像となります。しかし、地表が凸凹している場所では、カメラも上下してしまうことになり、隣あった画像とうまく合成できなくなってしまいます。また、真下一地点の一枚のみにしますと、いつも棒を持った自分が写ることになります。もう少し工夫が必要です。

■ 部分がいろいろとつながり全体に

日常において、私たちが対峙（たいじ）するのは部分のことが多いのです。全体を俯瞰することが重要とわかっていても、背後にある様々なシステムは見えにくいものばかりです。部分がつながり全体をなしていますが、部分部分の関連性は無数にあります。全体からみる部分のストーリーがダイナミックになります。たとえば、博物館の展示室はその一例です。生命の星・地球博物館では吹き抜けとなった1階の地球展示室と生命展示室を3階から俯瞰することができます。展示を広く見ることで一つ一つの展示物をみることに加え、その展示物が織りなすストーリーまで追うという高尚な遊びができれば面白いでしょう。

普段俯瞰できない3階の神奈川展示室に棒を持ち込み、パノラマ撮影を行ってみました。“俯瞰”によって地層に刻まれた神奈川の大地、多様な生物をはぐくむ相模湾、そして、陸と海の変動に呼応した貝化石が並びます。ダイナミックな相模湾が見えてきました。

参考：超長一脚で航空写真

<http://www.ksmt.com/dcm-pole/cm.htm>



神奈川展示室の5.5 mの高さからのパノラマ写真

わたしの選ぶ“この一冊”



司書 尾越佐緒里

小学館の学習百科図鑑 1 植物の図鑑

本田正次・牧野晩成（共編）

1971年初版発行

私にとっての“この一冊”を選ぶのは、人生の最期に何を食べたいかを選ぶのに匹敵するくらい難しいことです。

ちなみに、人生の最期に食べたいものは、伊勢原市某所にあるお店の揚げたての豚カツなのですが、“この一冊”は、豚カツの本ではなく「植物の図鑑（小学館の学習百科図鑑1）」です。

この本は私が生まれて初めて自分の意思で買ってもらった本であり、時には散歩の途中で何か植物を見つけてきては、本の中から同じ物を探し、八百屋さんやスーパーの店先に並ぶ果物や野菜の名前を調べたり、時には枕にして、ページが取れたり破けたりするまで見ていた本でもあります。

この本についてはちょっとしたエピソードがあります。ある日、保育園からの帰り道、いつものように草むらに面した歩道を母に手を引かれ歩いていると、普通なら赤いはずのアカツメクサが白いのです。四つ葉のクローバーでおなじみのシロツメクサの花が白いのは当たり前のことなのですが、赤い花が咲くからアカツメクサのはずなのに、白い花が咲いているのはおかしいのでは？

これは新種か？ もしかすると重大な発見？ と思い、母に小学館へ電話をしてもらい、そのことを伝えました。何日かすると小学館から電話が来ました。

「新種ではなく、“シロバナのアカツメクサ”で、余り見かけないものかもしれないが、珍しいもので

はない」との答えでした。

今思えば、出版社に電話をせず、博物館に聞けばよかったのですが…。

今回気になってこの“シロバナのアカツメクサ”について調べてみましたが、この花、“雪花詰草”と呼ばれているそうです。ロマンティックな名前ですね。

また、淡紅色の花を咲かせるモモイロツメクサもあるそうで、これもいつか探してみたいものです。

このようなエピソードもある、「植物の図鑑」ですが、各植物の紹介が、カラー写真ではなく絵なのです。

一つ一つが細密な水彩画で描かれていて、絵を見るだけでも十分楽しめます。

色合いも忠実に再現されていて、紅葉の項目では、本の上に落ち葉が載せられているかのような錯覚を覚えるほどの完成度です。

実のなる木や草には、その実のみの絵が添えられ、実だけを拾ってしまった時にそれを使って調べることができました。

見返しには各県ごとの県の花が載っており、47都道府県全部の花を一生懸命覚えた（今は覚えていません）記憶もあります。

植物自体を調べる際には絵ではなく、写真の方がわかりやすいということもあるかもしれませんが（現に同様の子ども向け図鑑ではカラー写真を主に使って紹介しているものもあります）、当時はその絵を見ることで、実物を目の前にした時、やっと本物に出会えたという新たな感動が生まれていたように思いました。

今でこそ、見たことのない花の一つや二つ見たとしても、たいしたことのない日常の続きなのですが、子どものころは一つ一つが大発見だったのだろうし、その発見の一部分はこの本によって生じていたのではないかと思います。

と、ここで、この本が人生を決めた一冊でした…とご紹介したいところなのですが、残念ながら人生を決めた本ではないようです。

しかしながら、この本の存在によって本を使って何かを調べるということの基本を学んだことは事実であり、この経験が司書として必要なレファレンス技術につながっていったのかもしれないと今になって思うのです。

ちなみにこの本は、ライブラリーの「子どもの本」のコーナーにありますので、ぜひ一度お手にとってみてください。



博物館 NOW

岩戸山植物相調査終了報告

植物グループ 赤堀 千里

神奈川県境、湯河原町と熱海市の間にある岩戸山は熱海峠から東に尾根を伸ばして、相模湾に稜線を落とす山です。友の会植物グループでは、自分達の植物に対する知識を深めるためと、植物相調査の実際を経験するため、この山を題材に調査に取り組みました。2005・06・07年を本調査に充て、2008年は補足調査をした結果が、2009年3月、博物館研究報

告としてまとめました。我々の調査で採集した標本は、1894点で954分類群でしたが、約15年前に同所で行われた平塚博物館による調査時の結果を合わせると1050の分類群が、この山に生育していることがわかりました。素人の私達がこの調査を形あるものに成しえたのは、植物分野の勝山、田中、木場の三人の学芸員の指導と熱い協力、グループの結束があつてのことと、今更ながら感慨を持ちます。細かな結果は図書室に保管されている報告書をご覧頂くとして、ここではこの調査の目的以外で私達の得たことや、エピソードをご披露しましょう。

得たことの第一は、様々な植物の四季折々の姿を堪能したことです。植物を探しに出かけているので

すから当たり前ともいえますが、自然は毎回、植物の取って置きの姿に触れる千載一遇の機会を与えてくれました。人知れず咲く花、人知れず実る果実、見事な計画性に裏打ちされた芽吹き、与えられた場所で、自然の摂理に従って、自分の能力をフル活用して生きる植物達。その姿に生きる元気をもらったのは、私一人ではなかったと思います。

第二は植物を見る目の変化です。生育現場で植物を採集し、毎日新聞を取り替えて標本に仕上げる過程で、植物により近く接します。「花」中心の認識から、「生命行動全体」へとその認識が変化したのは、得た事の大きな一つでしょう。

嬉しいことや悔やまれること等、エピソードには事欠きませんが、今となつてはどれも心温まる思い出になっています。藪こぎ中に車の鍵を落として帰るに帰れなくなったこと。遠くから尾根に咲くアマギツツジを見つけて、背より高いアズマザサの超密集地帯を分け入ったが良いが、花の方向が分からず、不安に駆られながら泥だらけになって採集したこと。畑の脇で植物を採集して行き過ぎると、後からおじいさんが息せき切って追いかけてきて、「さっき枯葉剤を撒いた所だから、触っちゃ駄目」と心配してくれたこと。東光寺の和尚さんに植物泥棒と間違われて叱かれた苦い思い出（その後は良き理解者です）。藪こぎで迷い、目くらめっぽう歩いて舗装道路に出てやれやれ助かった、でもそれが地図上のどこ

Bull. Kanagawa prefect. Mus. (Nat. Sci.), no.38, pp. 45-94, Mar. 2009

熱海市岩戸山の植物相

Vascular Plant Flora of Mt. Iwato-yama, Atami City, Shizuoka Prefecture, Japan

赤堀千里¹⁾・小久保恭子¹⁾・佐々木あや子¹⁾・田畑節子¹⁾・中山博子¹⁾・
山本絢子¹⁾・勝山輝男²⁾・田中徳久²⁾

Chisato AKAHORI¹⁾, Kyoko KOKUBO¹⁾, Ayako SASAKI¹⁾, Setsuko TABATA¹⁾, Hiroko NAKAYAMA¹⁾,
Ayako YAMAMOTO¹⁾, Teruo KATSUYAMA²⁾ & Norihisa TANAKA²⁾

Abstract. The Mt. Iwato-yama area is low mountains in altitudes from 300 to 850 meters located in the northern part of Atami City, Shizuoka Prefecture, Japan. The Shonan group of the Flora Kanagawa Association had collected many specimens of vascular plant in this area from 1988 to 1992, but no report had not been published yet. We have examined the floral work on vascular plant in this area since 2005. In the current paper, we provide a species list of this area, which are based on our collection combined with the Shonan group's one, and 1,050 taxa (species, subspecies and varieties) are recorded. Our collection is deposited in the herbarium of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History (KPM), and Shonan group's one in the herbarium of the Hiratsuka City Museum.

Key words: flora, vascular plants, Mt. Iwato-yama, Atami City

はじめに

『神奈川県植物誌1988』（神奈川県植物誌調査会編、1988）や『神奈川県植物誌2001』（神奈川県植物誌調査会編、2001；以下『神植誌01』と略記）の調査の過程で、行政区画を超えた隣接地域の植物相の把握の必要性が話題になった。また、神奈川県の植物地理区分などの検討に際しても、隣接地域の植物相との比較の重要性が指摘されている（田中、2003ほか）。『神奈川県植物誌1988』（神奈川県植物誌調査会編、1988）刊行後、平塚市博物館を拠点とする神奈川県植物誌調査会湘南ブロックでは、神奈川県の隣接地域として、静岡県熱海市岩戸山において、1988年～1992年に植物相調査を行った。しかし、この調査結果については、標本が収集され、データベース化はされているが、公表されることはなかった。神奈川県立生命の星・地球博物館友の会には、植物観察会などを企画、運営するグループがあり、そのスキルアップの一手段として、2005年～2008年に熱海市岩戸山周辺の植

物相調査を行った。本報では、湘南ブロックにより収集された標本のデータベースの提供を受け、今回の調査の成果に交え、岩戸山周辺地域の維管束植物目録を作成し、この地域の植物相の特徴を捉えるとともに、10数年間の植物相の変化について考察した。

調査範囲と調査地の概要

植物相調査の範囲は、静岡県熱海市の北端に位置する岩戸山（標高734m）を中心とする地域である。西側は主要地方道20号線（熱海箱根峠線）、北東側は神奈川県の千歳川を境にし、南側～東側は市街地と海岸を除くため、おおそ標高300m以上の地域を調査範囲としたが、伊豆山神社周辺は含めた。行政区画では、その大部分は熱海市泉、伊豆山で、田方郡函南町桑原がわずかに含まれる（図1）。

この地域の地質は、伊豆半島と同じ基盤岩である新第三系の湯ヶ島層群の上に、何度かの火山活動で流された溶岩流が積み重なっており、北面は千歳川の侵食作用により南面比して勾配のきつい斜面になっている。また、岩戸山山頂部には箱根火山外輪山を形成する白糸川溶岩グループの安山岩が分布する（長井・高橋、2008）。標高は、十国峠から北へ続く尾根上の熱海市、函南町、湯河原町の境界付近が最も高く、標高850mを超える。ここから十国峠までは750～800mの高度を維持し、標高771mの十国峠に至り、十国峠から東に延びる尾根は、おおむね700mの高度を保ち、標高734mの岩戸山に至る。岩

¹⁾ 神奈川県立生命の星・地球博物館友の会
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499
The Friends of the Kanagawa Prefectural Museum of
Natural History
499 Iryuda, Odawara, Kanagawa 250-0031, Japan

²⁾ 神奈川県立生命の星・地球博物館
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History
499 Iryuda, Odawara, Kanagawa 250-0031, Japan
勝山 輝男: katsu@nh.kanagawa-museum.jp
田中 徳久: tanaka@nh.kanagawa-museum.jp

出来上がった報告書

かさっぱり分からなかったこと。車しか通らぬ山の国道に捨てられて、今にも車に轢かれそうな子猫に、飼い主が見つかるよう、そっと人の集まるところへ運んだことなど尽きません。

山に出向くたびにブルトナーの音が高く迫るのは、キャタピラーの下になる植物を愛でた記憶が新しいだけにつらいものでした。この3年の間にも「生育していた」と過去形になる植物もあり、この調査が人間と自然の共存の境界を歩くものでもあったことを思い知ったのでした。

この調査には植物グループに在籍した延べ22人が関わりました。調査報告展示を4月4日友の会総会時に行います。是非ご覧ください。



熱海を望む草原での採集

<情報クリップ>



会員数 521名 2月11日現在（正会員 519名、賛助会員 2名）

<「フィールドワークの達人」割引販売について>

2月20日に待望の「フィールドワークの達人」が出版されました。

もうすでに、書店の店頭で手に取られた方、または購入された方がいるかもしれません。

なんと今回、店頭価格1,890円のところ、友の会会員の皆様には著者割引の1,500円で提供します。

会員様向け販売方法は次の通りです。

- 友の会総会（4月4日）の受付にて
- それ以降は、友の会事務局（博物館企画普及課内）で販売します。ただし、担当者が不在のときは対応できないことがあります。

※著者割引は数量に限りがございますので、お早めにお買い求め下さい。

<岩戸山植物相調査報告と標本展示>

通信「博物館NOW」に掲載しましたように、足掛け4年をかけた調査が完了しました。

つきましては、友の会の皆様にもご紹介したく、友の会総会に合わせ、標本や写真を展示いたしますので、是非ご覧下さい。

日 時：4月4日 9：00～16：30

場 所：県立生命の星・地球博物館 一階講義室（総会会場）

●第14回総会にご参加ください！

2010年4月4日（日）10：00より友の会総会を開催します。また、午後からは総会親睦イベントを行います。ぜひ、ご参加ください。

- <博物館休館日の内容変更>
- ・月曜日（祝日・休日の場合は翌平日）
 - ・夏休み期間中は開館
 - ・館内整備日……奇数月の第2火曜日
 - ・年末年始……12月29日～1月3日
 - ・館内くん蒸日…2010年は6月14日～18日

行事案内

◆ 植物観察会「里山の春を歩こう」

二宮町百合が丘団地から一色方面の里山で春の植物を観察します。

日 時：4月24日(土) 9:30～15:00 頃
(雨天中止)
場 所：中郡二宮町
講 師：勝山 輝男 学芸員
集 合：団地中央バス停(神奈川中央交通バス)
JR二宮駅から秦野行バスで約15分
小田急線秦野駅から二宮行バスで約30分
解 散：団地中央バス停
対 象：大人／30名(抽選)
参加費：300円／人
締切り：4月7日(水) 必着
連絡先：小久保 0
詳細は返信葉書で案内します。

もしろいことあるかもしれないよ」と子ども達が思ってくれるような定期的な催しを目指しています。何ができるのか、子ども達からどんな反応があるのか、初年度の今年は暗中模索の試行です。

開催日：5月9日(日) 植物分野
6月13日(日) 植物(地衣類)分野
時 間：13:00～15:00
場 所：実習実験室または図書コーナー
対 象：子ども(当日の来館者)
参加費：なし
申込み：当日

<今後の開催予定日>

9月12日、10月10日、11月14日

「よろずスタジオ」

スタッフ募集!!

◆ 境川遊水地で貝化石採集 PART 2

2008年4月の実施に続き、藤沢市「境川遊水地」で12.5万年前の貝化石を採集します。

土木事務所の許可を得て、当貯水池のエリア拡張部での採集と遊水地情報センター内での採集標本の整理作業を予定しています。

日 時：5月22日(土) 10:00～16:00
場 所：藤沢市 境川遊水地周辺
講 師：田口 公則 学芸員
集合・時間：小田急線[湘南台駅]改札出口10:00
対 象：子どもから大人まで／40名(抽選)
参加費：150円／人
締切り：5月11日(火) 必着 *チラシ無し
連絡先：中村(良) 6

団塊世代が次々と定年を迎え、技と知恵と時間を十分に持った人びとが社会に溢れています。一方で昨今の財政事情により、博物館は県からの予算も削られ、何かと行動しにくくなっています。この二つの条件は、補い合えば、何かできそうに思いませんか。



何年前か、文科省の「子どもの居場所づくり事業」実施施設ということで、子どものための楽しい企画が博物館で実施されました。学芸員さんが企画を直々に手がけたため、内容の充実した大変魅力あるものでした。しかしこれは労力とお金がかかり、学芸員さんだけで長く続けるには無理がありました。その流れを受け継いで、今度はアマチュアの友の会にできる、少し気楽な内容の企画で毎月実施し、博物館の恒例の出し物にしようという計画です。

子ども達のためにもなり、博物館を元気づけるこ

◆ 子ども自然科学ひろば「よろずスタジオ」

子ども達に自然科学のとびらを開いてもらうためのきっかけになり、「博物館に行ってみよう、何かお

ともなるこの企てに加わってくださる方を求めています。退職後の人生を、知恵と技と博物館の設備を生かして、子ども達のために何かやってみませんか。

興味をお持ちになった方は、是非ご連絡ください。

問合せ先：赤堀 0010

◆ 植物観察会「初夏の湿原を訪ねて」

小田貫湿原は静岡県側の富士山西麓で唯一の低層湿原です。標高約670～690mに位置する湿原の植物を中心に観察します。

日時：6月29日(火) 8:30～16:00頃

場所：静岡県富士宮市小田貫湿原周辺

講師：勝山 輝男 学芸員

集合・解散場所：JR松田駅北口前広場

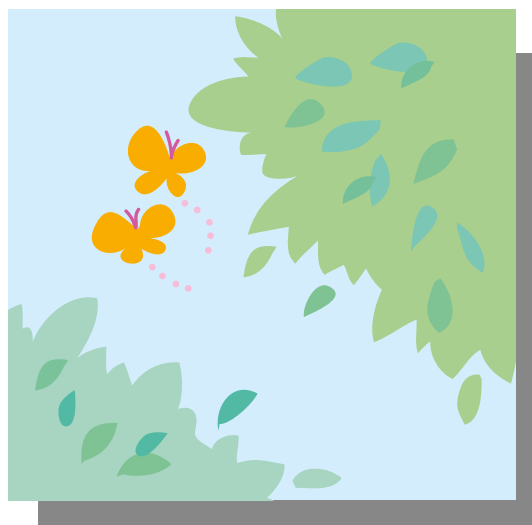
対象：大人／25名（抽選）

参加費：3,000円位／人

締切り：6月6日(日) 必着

連絡先：金井 4 - -

特記：参加費には往復バス代が含まれます。
コース詳細は返信葉書で案内します。



■参加申し込み

往復はがきに必要事項を記入して、友の会事務局までお送りください。ファックスや電子メールでは受け付けませんので、ご注意ください。

行事名／開催日／参加者全員の氏名・年令（学年）／会員番号／代表者の住所・電話番号／指定事項
ご不明な点は、友の会事務局へお問合せください。

■受付

返信はがきが開催日の1週間前ごろにお手元に届きます。当日ご持参ください。

■あて先

神奈川県立生命の星・地球博物館友の会事務局
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499

注意！

★参加費は1名分の金額で、内訳は資料代、傷害保険料です。それ以外のものは特記事項に記載があります。バスなど予約が必要な場合、参加者個々に材料を購入する場合などの講座参加確定後のキャンセルは、代わりの方をご紹介いただくか、参加費を負担していただく場合があります。

★オープンの行事は会員外の方も参加できます。

★小学生以下の参加は保護者同伴が原則です。

★チラシの発行されない行事もありますので、直接＜連絡先＞へお問い合わせください。

★持ち物など詳細は返信はがきに記載されます。



「友の会通信第68号」は、2010年6月15日発行予定です。

発行：神奈川県立生命の星・地球博物館友の会
Vol.13, No.4, 通巻67号 2010.3.20 発行
編集：友の会広報部
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499
TEL：0465-21-1515 FAX：0465-23-8846